

遠野市長臨時記者懇談会(平成 29 年 12 月 13 日) 発表項目

■日時 平成 29 年 12 月 13 日 (水) 11:00~12:00

■場所 市役所本庁舎 多目的大会議室

【発表項目】

1 高校再編に係る経過報告と高校魅力化サポート事業追加(支援策)の

方針決定について (資料 No. 1)

2 チャタヌーガ市への公式訪問団派遣について (資料 No. 2)



百年の縁を
100年続く絆に
永遠の日本のふるさと遠野

遠野市記者発表資料
平成29年12月13日
中高連携サポート室

高校再編に係る経過報告と高校魅力化サポート事業 追加(支援策)の方針決定について

【発表の要旨】

平成29年11月28日(火)に、「高校再編を考える市民会議」が、「県立高等学校統合に係る新たな判断基準を求める請願書」を岩手県議会議員長に提出しましたので、経過を報告します。

また、遠野市として地元高校の入学者確保に向けた高校魅力化サポート事業の追加支援策の方針を決定しましたので、その概要を説明いたします。なお、遠野市としての方針決定に係る具体的な制度設計及び予算化については、平成30年度当初予算の編成過程(市議会審議)で決定します。

【発表の内容】

1 高校再編に係る経過報告について

(1) 市民会議による署名活動の実施について

平成29年5月から、「高校再編を考える市民会議」による署名活動が行われ、市内外の多くの方々の賛同を得て、10,304筆の署名をいただいた。

(2) 署名趣旨

- ア 県内の過疎地域において適正な教育環境を維持するため、全国一律ではない岩手県ならではの「過疎地域における高校少人数学級の導入と教員定数確保」
- イ 子ども達の学びの選択肢を狭め、大切な未来を奪うことのないよう「新たな判断基準に基づく小規模校の存続、遠野高校・遠野緑峰高校の2校存続を求める」

(3) 県立高校の統合の判断時期

— 新たな県立高等学校再編計画 — (平成28年3月29日策定) 抜粋

「統合予定校では、地方創生に向けたそれぞれの地域の取組の推移や、平成30年度までの入学者の状況等の検証を行い、統合時期等について検討します。」

⇒ 県教委事務局 高校の再編計画についての判断は、平成30年2月後半から3月

(4) 岩手県議会等への提出

— 市民の思い(署名)を届ける! —

- ア 11月17日 岩手県議会議員への説明・依頼
- イ 11月24日 岩手県議会議員長に署名一式提出
岩手県議会議員長・岩手県教育長に市長・議長からの要望書を提出
- ウ 11月28日 岩手県議会議員長に請願書を全会派推薦で提出
- エ 12月8日 請願を岩手県議会商工文教委員会で審査(*付帯意見、採択)
* 請願事項には、すぐに実現が難しい諸課題が含まれていることから、その趣旨について賛同し採択する。
- オ 12月11日 岩手県議会本会議(請願採択)

2 高校魅力化サポート事業追加（支援策）の方針決定について

(1) 市内の高校に通学する生徒に対する通学支援

ア 目的

現在進学先を検討している中学3年生に対し、市内高校への入学を後押しする施策として、通学に係る経済的負担の一部を軽減する。

また、従来から実践してきた高校の魅力アップに関する取組に加え、J R 遠野駅、市内路線バス等の公共交通機関の利用促進を図る。

イ 通学支援の内容（平成30年度から）

高校魅力化アクションプラン（平成29年2月策定）に基づき、遠野高校及び遠野緑峰高校両校へ通学する生徒を対象に、J R 及び路線バスの定期券の購入費用の半額を補助する。

ウ 予算規模

平成29年度の両校高校生のうち公共交通機関利用者のべ 100名程度（J R 釜石線利用者約80名、路線バス利用者約20名）の利用実績から、利用者の増加（25%増）を見込み、総額 500万円程度の補助金額を想定している。

(2) 高校生海外派遣研修事業の拡充

ア 目的

市内高校のより一層の魅力化及びグローバル人材の育成のため、平成30年度から高校生海外派遣事業の派遣人数及び期間の拡充を図る。

また、派遣に係る経費の補助率を上げ、生徒がより参加しやすい環境にする。

イ 派遣事業拡充の内容（平成30年度から）

区分	現 行	拡 充（案）	備 考
派遣人数	4人	8人	
派遣期間	13日程度	16日程度	(案)H31.1.4(金)～19(土)
訪問先	チャタヌーガ	チャタヌーガ + ニューヨーク等	チャタヌーガで高校訪問 ・ホームステイ研修後ニュー ヨーク(国連本部)等を訪 問する。
派遣経費	約30万円	約60万円	
補助率 (自己負担額)	2/3 (約8万円)	9/10 (約6万円)	

ウ 予算規模 約 500万円

担当	教育委員会事務局 中高連携サポート室（澤村・畑山） 電話 0198-62-4412（内線 286） 市民センター 生涯学習スポーツ課（石田・朝倉） 電話 0198-62-4413（内線 212）
----	--

遠野市の 高校支援

対象

遠野高校・遠野緑峰高校に

時期

市内外から通学する全生徒
平成30年4月から実施を決定

通学支援

- ✓ 公共交通機関（JR釜石線や県交通の路線バス）利用の通学定期券購入費用を補助します
- ✓ 補助割合：半額補助（学割定期券購入金額の半額を助成します）

海外派遣

- ✓ 高校生海外派遣事業拡充により、グローバル人材の育成を図ります
- ✓ 派遣先：アメリカ/テネシー州/チャタヌーガ市 他（遠野市国際姉妹都市）
- ✓ 派遣人数：8名（毎年）
- ✓ 補助割合：費用の9割（自己負担額：1割）

※ 詳細については、平成30年3月に学校を通じて通知します

担当：遠野市教育委員会 中高連携サポート室



遠野市記者発表資料
平成29年12月13日
市民センター生涯学習スポーツ課

チャタヌーガ市への公式訪問団派遣について

【発表の要旨】

今年9月15日に姉妹都市締結のためチャタヌーガ市アンディ・バーク市長をはじめとする訪問団をお迎えした。

遠野市からも答礼の公式訪問団をアメリカ合衆国・テネシー州・チャタヌーガ市に派遣しますので、詳細をお知らせします。

【発表の内容】

1 派遣先

アメリカ合衆国・テネシー州・チャタヌーガ市

2 スケジュール

- (1) 派遣期間 平成30年1月9日（火）から14日（日）まで
(2) 派遣日程 4泊6日

3 公式訪問団員（6名）

No.	所属・肩書き等	氏名	備考
1	遠野市長	本田 敏秋	団長
2	遠野市議会議長	新田 勝見	
3	(一財)遠野市教育文化振興財団副理事長	菅沼 隆子	
4	遠野市総務部長	鈴木 惣喜	
5	遠野市文化研究センター主任	糠森 千明	
6	『遠野物語』英訳者、元UCLA教授	ロナルド・A・モース	現地で合流

4 主な用務

公式訪問団が行う主な用務は、次のとおりです。

- (1) チャタヌーガ市長、チャタヌーガ遠野友好委員会グループ関係者等への答礼
- (2) 中高生交流に係る受入校（CSAS校、CSLA校）へのお礼及び視察
- (3) 今後の中高生交流のさらなる拡大に係る協議
- (4) 遠野市及び『遠野物語』の紹介
- (5) 経済交流など、中高生交流以外の交流に係る協議
- (6) 職員長期派遣研修に係る受入れ依頼

担当	市民センター生涯学習スポーツ課（石田、長門） 電話 0198-62-4413（内線 215）
----	---

(参考資料)

1 チャタヌーガ市のプロフィール

テネシー州東部、ジョージア州との州界に位置する。人口は約17万人で、テネシー川の豊かな流れと、自然に囲まれた都市です。

市名は、先住部族チェロキー族の言葉で「岩が迫りくる場所」という意味です。

かつては、金属や化学工業等が盛んな工業都市でしたが、1960年代に大気汚染が深刻化し、全米で最も大気汚染のひどい都市とされました。1970年代には、工場の閉鎖に伴って、浮浪者が増え治安が悪化しましたが、この状況を改善するため、官民一体の再開発が行われました。

その取組により危機を脱し、1996年には米大統領賞として「持続可能な開発をする街」の表彰を受けています。

現在は、公害対策として「電気バス」が市内を巡回し名物となっているほか、市内で生産も行っており、国外への輸出も手掛けています。

観光名所は、世界最大級の淡水魚水族館や他州を一望できるルックアウトマウンテン、大小様々な岩石や植物が見られるロックシティガーデン等があります。

また、日系企業（小松製作所）の工場やドイツの自動車メーカーが進出する等、雇用機会が確保され、「全米で特に住み良い都市のひとつ」として成長しています。

2 これまでの交流

- | | |
|------------|---|
| (1) はじまり | 平成元年度、遠野高校と遠野緑峰高校から海外交流の素案を受領 |
| (2) 高校生交流 | 平成2年度、市内2つの高校が、米国の国際教育交換協議会からの推薦により、チャタヌーガ市にあるCSAS校と姉妹校の締結。
その後、同市内のCSLA校も加わっている。
平成3年3月、高校生（10名）を派遣 |
| (3) 中学生交流 | 平成11年度、初めて中学生（8名）を派遣 |
| (4) 市民交流 | 平成14年度、市民訪問団（16名）を派遣 |
| (5) その他の交流 | 平成19年8月、市内小・中学校での英語指導の助手として、教育委員会に外国語指導助手（ALT）を招へい。
平成28年9月、一般財団法人遠野市教育文化振興財団に、国際化支援員（アレックス・ヒューイさん）を招へい。 |

(6) 交流人数（平成29年4月1日現在）

（単位：人回）

区分	派遣	受入
総人数	474	111
高校生	206	81
中学生	151	
一般	117	30

